

黄化えそ病(スターチス)

平成8年12月26日

高知県病害虫防除所

1. 病害虫名黄化えそ病
2. 発生作物スターチス
3. 病原トマト黄化えそウイルス(tomato spotted wilt virus:TSWV)
4. 特殊報の内容病原ウイルスの本県初発生を確認
5. 初発生の確認された時期平成8年11月
6. 発生場所南国市
7. 発生確認の経緯と発生状況

1)平成8年11月、南国市でスターチスに、葉脈えそを伴う生育不良株が発生した。2)ELISA法で検定したところ、TSWVの感染が確認された。

3)発生ほ場では感染株を除去し、媒介虫であるアザミウマ類の防除を徹底した結果、現在、発生は認められていない。

4)日本では1972年に、奈良県の露地トマトではじめて発生が確認されている。1994年、静岡県のキク、ガーベラで、1996年に、山形県、福島県、愛知県のトマトで発生しており、発生地域が拡大している。

8. 病徴

スターチスでは、生長点付近の葉に葉脈えそを生じるとともに奇形を生じる。また、株全体が萎縮し、生育不良となる。

9. スターチス以外で高知県において問題となる主な作物及び病徴

TSWVの寄主範囲は非常に広く、ナス科(トマト、ピーマン、ナス、タバコなど)、キク科(キク、ガーベラ、ダリアなど)、マメ科(ソラマメ、エンドウ、ササゲなど)、アカザ科(ホウレンソウ)などの作物に全身感染する。

1)トマト

葉に褐色のえそ斑点を生じ、葉先から黄化し、時にしおれる。茎・葉柄には褐色のえそ条斑を生じ、茎の内部が空洞化し、激しい場合は萎ちよう、枯死する。果実には、褐色のえそ斑を生じて、こぶ状に隆起し、奇形となる。上段ほど幼果が脱落しやすい。

2)ピーマン

施設栽培で冬期に発生すると、生長点付近の葉に軽いモザイクや奇形を生じ、やがて生長点のみが枯死する。また、成葉に不鮮明な黄色輪紋を生じる。茎の先端部や地際部付近には褐色のえそを生じ、維管束も褐変する。果実にも軽いモザイクや奇形を生じ、果面や果梗に褐色のえそを生じる。激発すると、全葉が萎ちようし、株が枯死する。夏期には、生長点付近の葉が黄色、奇形となり、黒色えそを生じるが、生長点が枯死することは少ない。

3)キク

葉は退色、えそ輪紋を生じ、枯死する。枯死葉が発生している茎にはえそ条斑を生じる。出蕾期に病徴が現れることが多い。

4) ガーベラ

葉に退緑斑点やえそ輪紋を生じる。

10. 伝搬方法

1) ミナミキイロアザミウマ、ヒラズハナアザミウマ、ミカンキイロアザミウマ、ネギアザミウマなどのアザミウマ類によって伝搬される。幼虫のみがウイルスを獲得し、成虫が永続伝搬する。経卵伝染はしない。

2) 汁液伝染し、条件によっては接触伝染する。土壌伝染、種子伝染はしない。

11. 防除対策

1) 発病株は早期に除去し、伝染源をなくす。

2) 媒介虫であるアザミウマ類の防除を徹底する。

3) アザミウマ類の防除に当たっては、薬剤防除だけでなく、ハウスサイドや天窓などの寒冷紗被覆、紫外線カットフィルムの利用、苗による本圃への持ち込み防止、栽培終了時の蒸し込み処理、ほ場及び周辺の除草等、耕種的・物理的な防除対策を積極的に取り入れる。

4) 購入苗で入ってくることも予想されるので、生育不良株の混入などに注意する。